

2018年度 立命館大学・大学院入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご家族の皆様、ご子息、ご息女のご入学、おめでとうございます。

また、学部での勉学を終え、さらに、大学院で学ばれる皆さん、ご進学、おめでとうございます。

本年度、立命館大学は、7,324人の新入生を迎えました。

また、大学院には、1,315人の皆さんが進学しました。

さらに、世界28カ国・地域から、635人の留学生が入学しました。

立命館大学長として、皆さんを心から歓迎いたします。

立命館大学は、本年、創立118周年を迎えます。皆さんは、長い歴史を有し、約3万5千人の学生と15の学部、21の大学院研究科を擁する、日本で有数の総合大学で学ぶこととなります。

また、立命館大学は、学生の約半分が下宿生という、全国型の大学です。さらに世界約28カ国・地域もの留学生が学ぶ大学でもあります。このような多様性あふれる環境は、皆さんにとって刺激的な学びの場になると確信しています。これからこの仲間たちと存分に学び、切磋琢磨していただきたいと思います。

私たちをとりまく状況は大きく変化しています。人や財貨、情報が世界中を移動するグローバル化の流れは、今後さらに進むことになるでしょう。私たちは、どこにいても世界と無縁な生活を送ることは考えられません。政治・経済・安全保障・地球環境の問題をはじめ、世界的規模で問われている問題は、地球や社会の存続自体に脅威をもたらしかねない深刻さを伴っています。自国の利益を優先する風潮や民主主義への懐疑までも語られています。

他方で、I canのノーベル平和賞受賞に見られるように、人類が蒙ることになるかも知れない危機に立ち向かう努力、広範に国際的な連帯や協調を理念とする確実な動きのあることも忘れてはなりません。

また、少子化・高齢化が進行する日本においては、地域に軸足をおきつつ、国全体に目を向ける視点、さらには世界を見通す姿勢も大切です。国内外の変化の中で、多文化共生の意識をもち、課題から目をそらすことなく、世界と日本の一員として、グローバルにも、ナショナルにも、そしてローカルにも活躍する力を大学でつけていただきたいと思います。

これからの時代は、人生の全ての時期において、継続的に学び続ける生き方が求められます。人類の歴史を変える可能性のある変化が、AI（人工知能）や、

あらゆるものをインターネットでつなぐIoTなどの情報技術の進歩を通じて起こりつつあり、知識や情報が次々と更新される社会が到来しています。

また、「人生100年時代」とも言われていますが、人生の複数のステージにおいて学びの機会をもつ時代がはじまっています。

したがって、これから皆さんが学ぶ場となる大学が、「学び方を学ぶ場所」であるということを忘れないようにしていただきたいと思います。

立命館大学・大学院は、そうした皆さんの成長につながる様々な機会を、これからも提供し続けていきます。多様な学びのフィールドに身をおき、自分の目で現実に触れ、様々な課題を探究する学生生活を送っていただきたいと思います。

また、多くの書物に触れる機会も、このような能力や豊かな人間性を育むうえで重要になります。是非図書館を利用し、読書の習慣を大切にしてください。

立命館は「未来」という言葉を大切にしています。元総長の末川博先生が述べられた有名な言葉に「未来を信じ、未来に生きる」という言葉があります。

未来に生きるとは、主体性を持って、新しい未来を創造するような生き方をすることです。皆さん一人ひとりが、次の時代、未来を担っていく主人公・主体に成長していただきたいと思います。

立命館は「平和と民主主義」を教育と研究の理念に据えています。誰もが平和な未来を望んでいます。しかし、「平和」とは、単に戦争のない状態だけを言うわけではありません。先に述べたような、世界的な枠組みで解決をはかるべき深刻な問題を解決して得られる状態もまた、目指すべき大切な「平和」の一つであります。

立命館で学ぶ皆さんには、「平和」な社会の実現のために何ができるかという問題意識を持って勉学に励んでいただきたいと思います。

入学に当たり、立命館の意味を紹介します。立命という言葉は、「妖寿たがわず、身を修め、もってこれを待つは、命を立つるゆえんなり」という孟子の尽心章句に由来します。「命を立つる館」である立命館とは、「修養を積んで、人生を切り開いていく場所」という意味です。立命館での学びをとおして、人生を切り開いていく力を獲得してください。

若い皆さんには無用の忠告かも知れませんが、何事を成すにも健康があつてのことです。健康に留意し、豊かな学生生活を立命館で過ごしてください。

この願いを伝え、学長の祝辞といたします。

2018年4月2日 立命館大学長 吉田美喜夫

(以上)